独立行政法人　国立病院機構　琉球病院

精神科　専攻医プログラム

1. 琉球病院の専攻医プログラムの特徴について
2. 年次目標
3. 1週間のタイムスケジュール（例）
4. プログラムコース選択
5. 研修連携施設
6. 指導体制・指導医紹介
7. 琉球病院での勉強会
8. Q&A
9. 定期購読雑誌
10. 取得可能資格
11. 処遇等
12. お問い合わせ先
13. 専攻医申し込み必要書類・提出期限

1. 琉球病院の専攻医プログラムの特徴について

当院は、沖縄本島の中央に位置する金武町に所在し、病床数 341 床、常勤職員 304 名（医師 14 名）、非常勤職員 32 名と県内最大クラスの、県内で最も長い歴史を誇る精神科医療機関です。組織としては急性期精神科治療部門（精神科スーパー救急病棟、精神科急性期病棟）、難治性統合失調症薬物療法部門（クロザピン専門病棟）、小児思春期精神医療部門（こども心療科、子供の心の診療ネットワーク事業）、司法精神医療部門（医療観察法病棟）、アディクション部門（依存症専門病棟、依存症対策治療拠点）、重度心身障害児（者）病棟（強度行動障害）、ACT（包括型地域生活支援プログラム）など、高度に専門化された治療ユニット群から構成されており、県内各地から数多くの医学的及び社会的治療困難例を受け入れています。

当院は琉球大学や九州大学、県立病院、民間総合病院、保健所等とも連携しています。研修でも、これら外部の社会資源を活用したプログラムも可能であり、精神科専門医としての基本的な医学知識に加えて、治療困難例に対する多職種、多施設での心理・社会的アプローチなどアドバンスレベルの実践的なスキルも学ぶことができます。

九州大学や琉球大学からローテーションで勤務される先生方もおり、さまざまなキャリア形成について知ることができます。また国立病院機構の一員という特徴を生かし、肥前精神医療センターや久里浜医療センター、さいがた医療センター等、他の国立病院機構精神科医療機関とも積極的に連携しており、研修医向けオンラインレクチャー、医師の相互派遣や研修参加、レジデントを対象とした学術集会（レジデントフォーラム）などの活動も活発に行われています。

県内精神科医療の人材育成も当院の責務であり、これまで多くの専攻医を育ててきた実績があります。当院は精神科研修医のニーズに十分こたえられる医療機関と自負しています。

精神科医として力をつけていきたい研修医は、是非とも一度見学にいらして、自らの目で確認いただければ幸いです。

プログラムの基本的な内容な以下にお示ししますが、専攻医それぞれの個別性、特殊性を尊重し、指導医と相談の上柔軟に対応していくことが可能です。お気軽にご相談ください。

2. 年次目標

1年次

上級医の指導の下、精神科急性期外来ケースの診療を行い、診断や治療、入院の要否の判断をしていきます。急性期および慢性期の病棟入院ケースを担当し、ケースの精神状態評価、治療内容調整、環境調整を上級医と連携しながら担っていきます。担当した入院ケースに関しては外来でのフォローアップも行なってもらいます。業務への習熟度や慣れを考慮したうえで、5 月ごろから指導医のオンコール体制でのバックアップの下、月に 3～4 回程度の当直業務を行います。

院内の各種勉強会への参加に加え、研修医自身も研究・学会発表を行い、学術面での知識・技能の向上を図ります。

2年次

当院での研修に加えて、連携医療機関での研修を通して更なるスキルアップを図ります。連携医療機関での研修期間は最低3ヶ月から最高 1 年まで可能ですが、他機関での研修を希望しない場合には院内だけでの研修も可能です。院内での研修中は、病棟管理及びに加えて、個々の習熟度に応じて、外来での新患対応及び再診外来を行なっていきます。

院内の勉強会での発表に加えて、地方精神科学会での発表も行ってもらいます。

3年次

専攻医研修の最終年として、当院で通年（他施設希望者は最低6ヶ月）の研修を行います。外来及び病棟業務を行い、主治医として主体的に治療方針を決定していきます。また精神科医としてのキャリア形成のため精神保健指定医、精神神経学会専門医取得に向けて、未経験症例などを積極的に担当し、上級医の指導の下、精神保健指定医の新規申請におけるケースレポート作成を行なっています。またサブスペシャリティを決めている方は、個々の希望に応じて、児童思春期症例やクロザピン症例、医療観察法症例、依存症症例等を担当していきます。研究・学会発表は、院内での勉強会での発表に加えて全国学会でのポスター発表などを目指し指導していきます。

上記の業務内容は、おおまかな目安であり、個々の特性、習熟度、家庭状況などに合わせて柔軟に対応していきます。疑問がありましたら、お気軽に担当までお問い合わせください。

3. 1週間のタイムスケジュール（例）

時間	月	火	水	木	金
8:30～9:00	脳波判読会		医局会（奇数週） 医局勉強会（偶数週）		
9:00～12:00	病棟業務	外来業務 （再来・週１回）	病棟業務	ECT・r -TMS 見学施行 病棟業務	病棟業務
12:00～13:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食 国立病院機構 精神医学講義
13:00～17:15	病棟業務	病棟業務	病棟業務 急患対応 （上級医と診察・週１回）	病棟業務	病棟業務
17:30～	肥前・さいがた 合同研修会 （数ヶ月に１回）				

※　いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医と合意の上で実施される。
原則として、40 時間/週を超えるスケジュールに関しては自由参加とする。

4. プログラムコース選択

	専攻医１年目	専攻医２年目	専攻医3年目
ローテーション （案）	琉球病院	自由ローテーション	琉球病院
	基幹病院　研修期間１年	研修期間１年：連携施設を選択して ローテーション　*1	基幹病院　研修期間１年　*2

*1 以下の施設から選択可能である。ローテーション時期、希望科、期間については事前の調整が必要である。尚、基幹病院で経験できないリエゾン研修を含めること。

- 新垣病院
- さいがた精神医療センター
- 肥前精神医療センター
- 榊原病院
- 琉球大学医学部附属病院
- 県立精和病院
- 九州大学医学部附属病院
- 九州医療センター
- 太宰府病院

*2 基幹病院の研修期間については、6ヶ月～1 年の間で相談の上、調整可能である。その他の期間は他連携施設で研修を行うなうことは可能であるが、研修のまとめは基幹病院で行う。

5. 研修連携施設

① 医療法人社団光風会　三光病院

https://www.sanko-hp.com/

② 独立行政法人　国立病院機構　さいがた医療センター

https://saigata.hosp.go.jp/

③ 九州大学病院

http://www.med.kyushu-u.ac.jp/psychiatry/

④ 独立行政法人　国立病院機構　肥前精神医療センター

https://hizen.hosp.go.jp/

⑤ 沖縄県立精和病院

http://www.hosp.pref.okinawa.jp/seiwa/urizun.html

⑥ 琉球大学病院

http://www.psy.med.u-ryukyu.ac.jp/

6. 指導体制・指導医紹介

1人の指導医がメインの指導担当として、研修をサポートしていきます。また医局全体で、垣根なく専攻医をサポートする体制があります。困った症例などは、どの先生にも気軽に相談することができます。外来での急患対応（ホットライン）でも常に指導医と診察に当たります。当直時にも、常に精神保健指定医がバックアップについており、いつでも連絡することができます。

- 外来・病棟・当直などでのトラブル、判断に迷うケースはスムーズに相談することが可能です。
- 精神保健指定医レポート、精神神経学会専門医取得についても、医局全体で助言や添削を行っていきます。
- 個別性や個人の習熟度を重視し、専攻医本人と相談しながら研修が行えるよう配慮していきます。

質問、疑問、不安などがありましたら、メールにて、または見学時にお尋ねください。

指導医紹介

真栄里　仁　副院長

　専攻医を目指す皆さん、こんにちは！
依存症専門病棟の医長をしています真栄里（まえさと）と申します。
当院は沖縄県から指定された依存症専門医療機関としてアルコールや薬物、ギャンブル等の各種アディクション治療を行っております。
　私はアルコール依存症を専門としており、研究、国際学会等での発表等のほか、前職の久里浜医療センターでは約 20 年間、全国の医療関係者を対象とした各種研修に携わってきました。当院でもその経験を生かして、臨床現場での研修医への On Job Training のほか、研修医を対象としたレクチャーを全 12 回のシリーズで実施しています。また学術面の指導も行っており、2024 年には当院研修医が共同執筆者となった論文が専門誌（精神科治療学）に掲載されております（真栄里仁，岡桜子，米本朋子　他：アルコール使用障害を合併したうつ病患者の薬物療法．精神科治療学第 39 巻 8 号、2024 年．https://www.seiwa-pb.co.jp/search/bo01/bo0102/bn/39/08index.html ）。それ以外でも 2026 年 2 月には当院研修医が、厚生労働省の事業である依存症対策全国センターの都道府県等依存症専門医療機関/相談員等全国会議（https://www.ncasa-japan.jp/supporter/medical-experts-information/conference/）で当院の取り組みを発表することになっております。
このように当院は、依存症臨床や研究に関する幅広い領域を研修医が経験できる医療機関です。
また私は副院長として研修全般の責任も担っており、研修医の先生方の当院での経験が、今後の医師としてのキャリアップにつながるようにサポートしていきます。
当院での研修に興味を持たれている皆さん、是非ともこの沖縄の地で一緒に勉強していきましょう。

木田　直也　精神科医長

　クロザピン（CLZ）治療部門の責任者をしています木田と申します。CLZ はご存じのように治療抵抗性統合失調症（TRS）に対しての適応を有する唯一の抗精神病薬です。CLZ は国内外の治療ガイドラインにおいても TRS に対しては第一選択薬として位置付けられており、現代の精神科医療のなかで欠かせない治療法となっています。当院では、2010 年から CLZ 治療を開始し、これまで延べ約 450 人の患者様に治療を行ってきました。これは国内の医療機関のなかで3番目に多い症例数となっています。国内唯一のクロザピン治療専門病棟（56 床）を当院では 2015 年に開設し、各医療機関から適応のある患者様のご紹介をいただいて、この専門病棟で入院治療を行い、退院後はかかりつけの医療機関に通院をしていただくという地域連携「沖縄モデル」を県内で積極的に展開しています。また CLZ 専門外来も週3回行っており、患者様の地域生活の支援をしています。重度の精神症状を有する患者様が CLZ 治療によって回復し、社会復帰をしていくご様子は感動的であり、精神科医になって良かったと感じる瞬間でもあります。沖縄固有の文化や美しい環境のなかで、当院は CLZ 治療だけでなく、精神科での様々な専門医療を行っています。ぜひ、私たちの仲間になってください。

久保　彩子　精神科医長

2007 年医療観察法病棟の立ち上げから、当院の司法精神医療が本格的に始まり、その頃より私は司法精神医学分野の一員として、医療観察法診療や精神鑑定に携わってきました。

医療観察法診療においても、当院が一丸となって取り組んできた治療抵抗性統合失調症治療薬クロザピンを活かした治療を特色としてきましたが、近年はさらに、地域生活における触法精神障害者の支援にも力を入れており、2023 年より厚生労働科学研究費補助金による分担研究を担い、医療観察法における退院後支援をテーマにした研究を行っています。

また医療観察法に関わる研修の講師として、指定通院医療機関従事者研修会、指定入院医療機関従事者研修会、精神保健判定医等養成研修会、医療観察法判定事例研修会などに参加し、全国でご活躍される司法精神医療専門の先生方との交流も活発に行っています。

多くの精神科診療に携わる方々にとって、医療観察法医療は聞きなれない、遠い存在かもしれません。しかし、この医療は精神科医療における地域移行が発展した 2000 年前後の英国をモデルとしており、多職種チーム医療を特色としながら、「治療共同体」を治療理念に掲げ、手厚い医療によって社会復帰に向けた全人的な支援を展開しています。

そして、当院の医療観察法病棟には専門性が高く、情熱を持ったスタッフが多く在籍しており、それらスタッフとの協働的な臨床活動は、司法精神医学分野に特化した経験だけではなく、一般精神医療にも通じる幅広い臨床経験が得られます。

女性医師は家庭や子育て、介護などにより、臨床を続ける難しさを感じることがあるかもしれませんが、当院では女性医師支援にも力を入れており、支援制度により、子育てや介護による休暇期間を経た後も、安心して臨床を続けながら、サブスペシャリティをあきらめることなく、医師としての研鑽を積むことができます。

また、当院には社会人大学院生として、臨床や教育だけでなく、研究分野に力を入れている医師も少なくありません。

このように当院の魅力は国立病院機構という立場を活かし、性別、年齢、出身、出身大学、サブスペシャリティ、研究テーマなどそれぞれ違った多様な精神科医師が集まり、リベラルな雰囲気の中、それぞれの「やりたいこと」が尊重されるところではないかと思います。当院にご興味のある先生はぜひ一度見学にお越しください

原田　聰志　精神科医長

私は、児童精神科医として子ども心療科（児童精神科）を担当しております。児童精神科は、子どものこころの成長や発達を支援し、子どものこころの様々な問題に対応する分野です。具体的には、自閉スペクトラム症、ADHD 等の神経発達症候群（いわゆる発達障害）、知的障害、子どものうつ病、子どもの神経症（強迫性障害、解離性障害）などの疾患に対応しております。子どもの症例を通して、子どもや親との面接の仕方、診断や見立ての立て方、環境調整の仕方、薬物療法、心理療法、ペアレントトレーニングなど児童精神医療の基礎を学ぶことができます。また子ども心療科の特色としては、医師だけで子どもの治療をするのではなく、医師と心理士の二人で共同して子どもに対応するチーム医療を行っています。そのため児童精神科初心者の方でも勉強しやすいと思います。現在、子どものこころの専門医を取得するために多くの小児科医や精神科医も非常勤で来られており、毎週の新患紹介、トリアージミーティング、症例検討会にも参加できます。精神科を目指す先生方にとって、児童精神医学を学んでおくことは、精神科の臨床をしていく上で大変役にたつことが多いと思います。また多くの子ども達の回復力を感じることができますし、楽しく学ぶことができると思います。

ぜひ一緒に勉強しましょう！

福森　崇之　東１病棟医長

東１病棟で医長をしている福森と申します。東１病棟は、精神科スーパー救急病棟（精神科救急急性期医療入院料病棟）といい、統合失調症、双極症、うつ病などを代表に、急性期に集中的な治療が必要となる様々な精神疾患の方々に出会うことのできる、精神科医療の面白さが詰まった病棟です。治療としては、クロザピン導入を含む薬物療法、m-ECT、心理療法、服薬指導、作業療法、栄養食事指導など、多職種で集学的な治療に取組み、初期段階から専属の精神保健福祉士による介入も開始し、早期の在宅治療への移行を目指します。医師や多職種で定期的に行うカンファレンスで、精神科的評価や治療方針について検討を行う他、専攻医一人ひとりに対する指導医の個別のサポートもあるので、初学者でも安心して専門的知識を身につけ、指定医や専門医を目指すことができると思います。自分は県外から就職していますが、琉球病院は沖縄の美しい海の前に位置し、医局や病棟はとても明るくアットホームなので働きやすいと感じています。琉球病院や精神科救急に興味を持って頂いた先生方は、ぜひ一度琉球病院に気軽に見学にお越しください。みなさんと一緒に精神科医療の面白さを体験できることを楽しみにしています。

西平　賀政　外来医長

皆様、初めまして。私は 2006 年琉球大学を卒業し、沖縄県立中部病院でプライマリーケアコースとして初期及び後期研修を受け、離島診療所勤務を経験した後、2011 年より精神神経科を専攻しています。精神医学領域においては、専門がないことが自分の専門と考えており、どのような疾患や背景のある方も積極的に診療していきたいと考えています。特に興味がある分野は器質性精神医学及び心的トラウマ（広義のトラウマ関連疾患）です。また、沖縄県の地理的背景から英語での精神科診療にも興味があり、積極的に英語を母国語または第二言語とする方々の診療を行っています。

専攻医研修では、幅広い疾患を経験できることが、その後のキャリア形成に重要だと考えています。当院のプログラムは、精神疾患に対する医学的アプローチはもちろん、さまざまな社会的背景に対するアプローチを学ぶことができます。

指導医としては、常に専攻医のメンタルヘルスに気を配りながら、個々人の特性や希望、力量を見極め、本人の主体的な方針決定を尊重し、いきいきと研修できる環境を整えていきたいと思っています。

ご質問がある方は遠慮なく、見学時にお声がけ頂ければと考えております。

7. 琉球病院での勉強会

脳波勉強会

毎週月曜日朝8時半から、気になる脳波所見を皆で供覧し、ディスカッションを行います。院長先生を中心に所見の解釈や今後の治療方針を話し合い脳波への理解、関心深め、臨床診療を役立てることができます。

病棟カンファレンス

隔週の木曜日15時より、急性期病棟にて医師、看護師、薬剤師、栄養士など多職種で病棟運営の問題点や改善点、症例のアプローチについてなど、垣根のないディスカッションを行なっています。

医師カンファレンス

隔週の木曜日16時より、医師を中心に気になる症例のディスカッションを行い、治療方針の確認や、臨床疑問の解決にあたります。院外からの先生や、ローテーション中の学生、初期臨床研修医も加わり、活発な議論が交わされます。

隔週の勉強会

医局会のない、隔週（偶数週）の水曜日、8 時 30 分から 9 時まで指導医からのレクチャーや、専門分野に関する論文のまとめなどの発表があり、精神医学の知識をアップデートしていくことができます。

国立病院機構レクチャー

毎週金曜日 12 時 45 分～13 時 20 分、国立病院機構専攻医に向けたレクチャーがあります。肥前精神医療センターの先生方が中心に、精神医学の幅広い内容について、網羅的に通年でレクチャーをしてくれます。

8. Q&A

Q：担当患者数はどれくらいですか？

入院担当患者数は、年次や本人の習熟度に応じて変動があります。1年次開始時は、徐々に患者数を増やしていくことを目標とし、最終的には急性期の患者さん5人前後＋療養病棟患者さん 10～15 人程度と考えています。ただし、本人の希望、習熟度に応じて、指導医と相談し、増減していきます。疑問がある方は、見学時に遠慮なくご質問下さい。

Q：休みはありますか？

週休 2 日制で、祝日、年末年始、年次休暇、病気休暇、リフレッシュ休暇（年 3 日）取得可能です。

Q：勤務時間や残業はありますか？

勤務時間は週 5 日8時 30 分～17 時 15 分です。残業は基本的にありません。

Q：精神保健指定医や精神神経学会専門医は取得できますか？

取得できます。当院では指導医がバックアップし、症例の選定や、レポートの添削などをサポートしていきます。

Q：外来は担当することはありますか？

1 年目は、新患対応は行わず、病棟での担当患者さんの退院後のフォローを基本的に行ってもらいます。2 年目以降、本人の希望、習熟度を勘案しながら新患対応を行っていくかどうか、指導医と相談の上、決定していきます。

Q：当直回数は月どれくらいですか？

3～4 回程度です。個人の事情や家庭の状況などに応じて相談可能です。必ず精神保健指定医がオンコールでバックアップにつきます。

Q：専攻医修了後はどうなりますか？

きちんと精神保健指定医や精神神経学会専門医を取得していただくことが、その後のキャリアに非常に重要であると考えています。そのため 3 年修了後も引き続き当院で働きながら資格取得を目指すことができます。その後についても各先生の希望に応じて対応してきます。

Q：宿舎を利用することはできますか？

病院の宿舎は空き状態に応じて、毎年募集があります。希望される場合、医師は優先して割り当てられます。
その他、ご質問がありましたら遠慮なく、メールにてもしくは見学時にお尋ね下さい。

9. 定期購読雑誌

- 精神科治療学
- 精神神経学雑誌
- 精神医学
- 日本病院会雑誌
- 日本精神科病院協会雑誌
- 沖縄県医師会報
- 医療の広場
- 医学会新聞
- 日本病院会ニュース
- 保健福祉 NEWS

10. 取得可能資格

- 精神保健指定医
- 日本精神神経学会専門医
- 日本認知症学会専門医
- 日本精神科救急学会認定医
- 精神保健判定医
- CPMS 登録医

11. 処遇等

琉球病院に雇用されている期間の待遇については下記のとおりです

雇用形態	常勤
勤務日数	週 5 日　8:30～17:15（土日祝及び年末年始は休日）
月給	70 万円程度（基本給、医師手当、地域手当含む）他各種手当あり 国立病院機構規程に基づき経験により決定
手当	扶養手当、通勤手当、住居手当他
賞与	4.2 ヶ月分
保険	健康保険・厚生年金・雇用保険等

12. お問い合わせ先

〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武 7958-1
独立行政法人国立病院機構
琉球病院 管理課 庶務班長
電話 098-968-2133 内線 217
FAX 098-968-2679
E-mail 627-kanrika@mail.hosp.go.jp

13. 専攻医申し込み必要書類・提出期限

必要書類

- レジデント採用願書（所定の用紙）
- 医師免許証写し

※郵送にて提出をお願い申し上げます。

提出期限

2026 年 10 月末日